

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人花ヶ島福祉会
施設名	ひなたほいくえん
報告者（役職）	石本 由美子（園長）
住所・連絡先	宮崎県宮崎市大字芳士 1808 番地 1
	☎ 0985-74-7727
	E-mail hinata-hoiku@eagle.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

架け橋期の学びの充実のために ～ドキドキをワクワクに～

○主な助成備品

学生机、学生イス、ホワイトボード、座卓、収納ボックス

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

当園は、隣接する小学校と近隣の保育園・こども園・幼稚園（計4園）で保幼少連携推進協議会を設置し、年度初めの会議、教職員の合同研修会、1年生との交流会や授業参観など様々な保幼少連携の取り組みを実施しています。

当園の取組としては、

- ① 公開保育の実施・・・0歳児から年長児までの発達の連続性や発達に応じた保育の環境、子どもたちが遊び込む姿を見て頂いています。
- ② 子ども同士の交流・・・4年生の「保育のお仕事体験」（保育士がお仕事説明）、年長児と1年生の交流会、年長児による学校探検などを通して、学校には助けてくれる人がいっぱいいること、安心できる場所であることを知る機会にしています。
- ③ 職員間の交流・・・他施設の教職員間の対話の重要性から、同じテーマで子どもの興味や関心を語り合う会を実施しました。興味や関心のあることに夢中になる姿には、「安心感」が基盤になることを共有しました。
- ④ 同窓会・・・前年度卒園児・保護者を招いての同窓会「1年生の本音トーク会」を実施しています。1年生になって楽しかったことや困ったことを聞いたり、年長児の質問に答えてもらったり、別室では保護者のお悩み相談もしました。1年生の姿を見て、「学校って楽しそう」「友だちがたくさんできるんだ」という安心感と期待につながっています。

秋の就学時健診で就学予定の小学校に行った経験から、子どもたちが小学校に対する興味を持ち始め、友だち同士で絵本を読み合ったり、お手紙交換したり、「小学生ごっこ」を楽しんでいる一方で、中には新しい環境への不安を強く持つ子もいる現状があること知り、新たな取り組みの必要性を感じたところです。

そして、子どもたちの就学への不安をワクワクへと変えられるよう、「小学生ごっこ」のための環境整備を行うとともに、子どもの様々な興味・関心を引き出すために、主体的に動ける子どもの発達にあった環境を整えたいと考え、計画しました。

2. 具体的な実施内容

1 「架け橋期」の学びの充実に必要な環境整備

子どもの中には、新しい環境への不安が強い子ども、強い刺激が苦手な子ども、個別の配慮を要する子どもがいて、どのような環境や経験が、落ち着いた学校生活の移行につながるかを考えてみました。

「保育園と学校との違いを楽しいものにしていきたい」 勉強編

○保育園は大きな机をみんなで使う。みんなとするのは楽しいけれど・・・

隣の子が気になってしまう → ひとりで集中できる環境は大切

(現状) 楽しいけれど集中できない

1人の机ってどんな感じ？

(成果) 「小学校ごっこ」のための個人ごとの机・イス

ひとりでもみんなと楽しく・仲良くできるね！

(新しい環境・・・学生机・イス
ホワイトボード)



(子どもたちの様子)



「保育園と学校との違いを楽しいものにしていきたい」 話し合い編

○小学校は「みんなで話し合いをして決める」らしいよ！

○保育園のサークルタイムと同じかな？ 自分の言いたいことが言えるかな？

○テーブル・イスを使わず小さな座卓を囲むことで、話し合いの距離が近くなり、自分の話を聞いてもらうことの喜び、友だちの話を聞いていろいろな思いがあることを知る。自分の感じたこと、考えたことを「ことば」で表現し、伝えることができるようになる。

(現状) みんなで話し合っているけど、ちょっと遠いな、友だちの声が聞こえない

(成果) 小さな座卓を囲むことで

距離が近くなる、良く見える みんなの言葉も聞こえるね

(新しい環境・・・座卓)



(子どもたちの様子)



2 子どもの様々な興味・関心を引き出すために

子ども主体の遊びを通して、豊かな対話や協同が生まれる。さらに気づきや探求・創造や発見による学びが生まれるには、「環境」の在り方が不可欠だと考えます。

「主体的に動ける子どもの発達にあった環境構成とは」

- ① 子どもの発達にあった環境
- ② 興味・関心を引き出す環境
- ③ 子どもが主体的に動ける環境

という3つの柱で、子どものイメージがどんどん広がる・深まる、そのイメージをどう実現していくかしていくか、ふさわしい材料・道具などの環境を「常設のゾーン」としてレイアウトしてみました。

製作ゾーン・・・塗り絵や迷路が個々に応じて挑戦できるように、レベル別に置いてみる。

紙の厚さや大きさなど自分で選ぶことができる。

折り紙の本を置いておくことで、それを見ながら挑戦することができる。

知育ゾーン・・・指先を使った遊びや規則性のある遊びに挑戦する。

絵本ゾーン・・・自分で読みたい本を選ぶ。わからない文字は友だちに聞く。

【大人を挟まなくても子どもたちで遊びが進んでいく環境】
(収納ボックス、座卓)

(新しい環境・・・知育ゾーン)



(知育ゾーンの様子)



(新しい環境・・・絵本ゾーン)



(絵本ゾーンの様子)



(新しい環境・・・製作ゾーンの様子)



(新しい環境・・・年長児だけのゾーン)



3. その成果と評価

1人用の机と椅子で、子どもたちの背筋が伸び、姿勢が良くなったことを痛感しました。また、子どもたちが音を立てないように自分で気をつけながら立ったり座ったりする姿、正面に保育士が立つことで目を見て話を聞こうとする姿が見られました。

小学校探検で授業の様子や、持ち物の片付け方を見たりした後に、小学校と同じような環境があることで、自分なりに1年生になった自分をイメージしながらやってみようとする子どもたち。自分で考え行動する姿が見られました。

子どもの発達にあった遊びの環境（常設のゾーン）がいつもあって、子どもたちは「やりたい」遊びに集中して取り組みます。各ゾーンには、使い方や片付け方が表示されていて、自分で遊びを選んだ責任をもって、約束事を守り使う姿が見られます。

子どもたちが遊び込める時間と空間をしっかりと確保するようになってから、子どもの中に見通しができて、「今日はここまで、でも明日はこうやって遊びたい」という交渉により、また遊びが継続発展していくようになりました。

4. 今後の課題と展望

大人が準備したことを「やらされる」のではなく「自分の好きな事を選べる環境」により、子どもが主体的に活動し、集中力が深まり、遊びがますます発展することがわかりました。子どもは様々な遊具や教具・自然環境に触れ、発見したり、感動したりしながら、興味や関心を広げていきます。

人とのかかわる力は、家族や地域の中で、多様な大人たちや異年齢の子どもたちと接することで学んできました。しかしながら、少子化になり、核家族化し、兄弟とのかかわりも減ってきた今日、それは困難です。人と人とのかかわりを促す環境を考え、大人に見守られながら、子ども同士の中で成長していく人間関係を大切にしていきたいと思っています。

保育園と学校との違いはたくさんあります。その段差をワクワクしながら子どもたちが歩いていけるよう、未知なことやわからないことを自分なりに考え、自分自身で納得するまで探求し続ける遊びや体験ができる環境作りを目指していきたいです。

以上